

平成 25 年 7 月 22 日

南会津町
町長 大宅宗吉 殿

ふくしまインフラ長寿命化研究会代表
日本大学工学部教授 岩城一郎

“南会津町発” 地域力を活かした橋守システムの構築について

近年、東日本大震災の発生、高速道路トンネルの崩落事故といった背景から、国土強靱化、とりわけ橋をはじめとするインフラの老朽化対策に関する国民の関心が急速に高まっている。この問題は、予算や人材が十分でない地方自治体ほど深刻であり、有効な打開策を見いだせない状況にある。このような背景の下、福島県内の主として市町村で管理しているインフラの長寿命化策を考える「ふくしまインフラ長寿命化研究会」が今年 4 月に発足した。ここでは、産官学で構成される会員により、福島県内のインフラの現状を調査し、各地域の身の丈に合ったインフラ長寿命化策を提言し、実践することを目的としている。具体的には、従来型の行政主導によるインフラ整備にとどまらず、自治体と地域の建設業や住民、大学との連携等により、インフラを長寿命化させる新たなシステムの導入も検討している。

南会津町は 2006（平成 18）年に 4 町村が合併して誕生した広大な面積を有する人口約 18000 人の町である。豊かな自然に囲まれ、文化的な観光資源にも恵まれている反面、冬期はわが国有数の豪雪地帯となり、度々豪雨災害にも見舞われるなど厳しい自然環境にさらされている。さらに、過疎化と高齢化が進行し、限界集落や、災害時の集落の孤立化といった深刻な問題とも向き合う必要がある。現時点で町内のインフラは総じて危機的な状況には達していないと判断されるものの、今後老朽化が進行し、地震災害や豪雨災害を受けると、壊滅的な状況に陥る可能性も否定できない。

こうしたインフラを維持管理するためには、田島にある役場から旧村（南郷、伊南、舘岩）までそれぞれ数 10km 離れていることを考慮すると、田島を中心とする集中管理型の体制が有効であるとは言い難い。そこで、各地区（田島、南郷、伊南、舘岩）の地域力を活かし、地元のインフラ整備に携わる業者（建設業、測量設計業等）が中心となり、年間を通して橋をはじめとするインフラの点検、診断、対策を担うとともに、町民との協働により橋の維持管理を進める方法が望ましいと思われる。そのためには地元業者の技術力の向上と、住民のインフラに対する関心・愛着の醸成が不可欠で、本研究会においてそのためのプログラムを提案し、行政と一体となって実践していくことが重要と考えている。

その活動の発端として、今回地域の産官学による南会津町内の橋の現状視察、地元建設業や住民の方々に対する橋の講習会、さらには地域の小学生や商工会青年部、日本大学工学部の学生らによる橋の簡易な維持管理（橋の歯みがきプロジェクト）の開催を提案する。

本取組みは南会津町発の新しいモデルとして、地域のインフラ保全のあり方に一石を投げるとともに、今後同様の問題を抱える他地域への水平展開が可能になるものと思われる。さらに、少子高齢化、過疎化が進む中、地元業者と住民の連携により地域力を高め、地域の活性化、自立を目指す好例として、今後の持続可能な社会のあり方を論じる上で重要な役割を果たすことが期待される。

以上